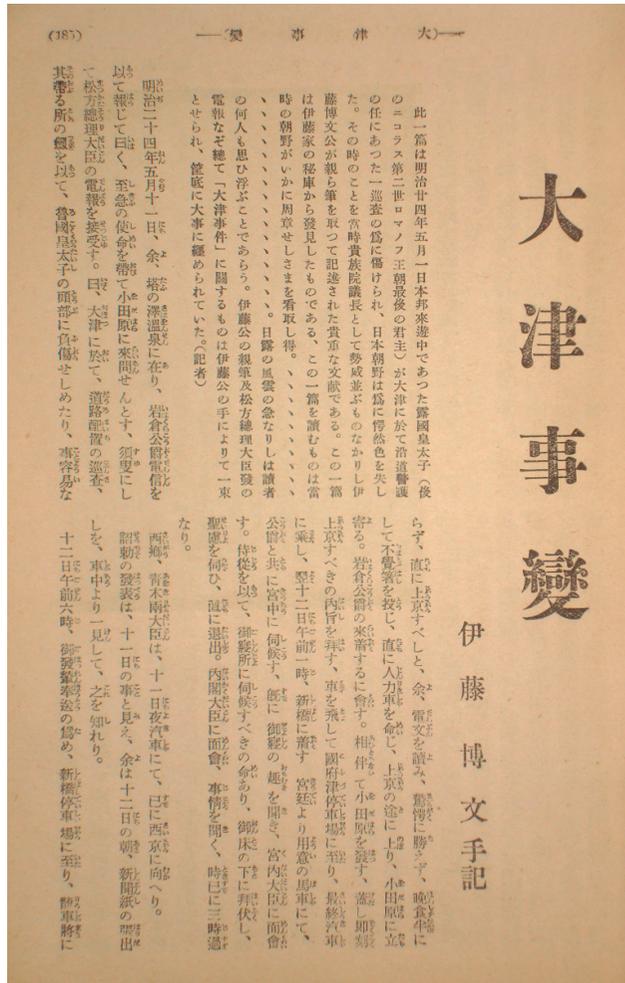


大津事件（条約改正）



- * 毛利家文庫 75維新記事雜録20「大津事変（伊藤博文）」
- * 雑誌「改造」10巻1号（昭和3年1月）に載せられた、大津事件についての伊藤博文の手記で、「事変突発と共に、朝野は愕然として色を失ひ、…」と記されている。

解説

条約改正への努力は、岩倉使節団を先駆けとして、寺島宗則・井上馨・大隈重信らによって進められました。井上の欧化政策や外国人判事の任用問題等で何度も頓挫し、1889（明治22）年には大隈が国家主義団体員に襲撃されるという事件もあって、なかなか進展しませんでした。

1891（明治24）年にはイギリスが改正に応じる意向を示し、外相青木周蔵が交渉を進めましたが、調印直前に、来日中のロシア皇太子ニコライ（のちのニコライ二世）が日本の巡査に襲撃されるという事件（大津事件）で引責辞任し、またも交渉は中止されました。

青木周蔵は山口県厚狭郡生田村（現、山陽小野田市埴生）に生まれ、萩藩医だった青木周弼の養子となりましたが、医の道を捨てて外交の道に進みました。1894（明治27）年の日英通商航海条約では、駐英公使として陸奥宗光外務大臣とともに領事裁判権の撤廃に成功しました。

* 国立国会図書館憲政資料室に「青木周蔵関係文書」がありますが、当館にも、周蔵が日野宗春にあてた書簡4通（日野家文書108）など、幕末から明治にかけての数通の書簡類が残っています。

